（公財）中央果実協会
No.354

韓国の柑橘類事情（タンジェリン/マンダリン）

米国農務省GAINレポート　2024年12月27日

これは米国農務省海外農業局ソウル事務所（韓国）が作成した「柑橘類年次報告書」の概要とタンジェリン/マンダリンの項を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

韓国の2024/25販売年度（年度）の柑橘類生産量は、減少傾向の栽培面積と悪天候により、2.6%減の56万5千トンと10年ぶりの低水準になることが予測される。韓国の柑橘類のほぼ全てが栽培されている済州島では、9月中旬までの長期にわたる夏の熱波と、その後の秋の多雨により裂果や腐敗果を生じた。2023/24年度には、他の国産果実（リンゴ、ナシ、カキ）が不足したため、消費者が十分に供給された国産ミカンと輸入オレンジで代用するようになり、消費量がそれぞれ4.3%及び11.5%増加し、柑橘類全体の消費量が増加した。2024/25年度には、輸入果実の緊急関税割当が更新されないと予想されるため、主に米国からである生鮮オレンジの輸入は減少すると予想される。米国は2024年6月にテキサス州産グレープフルーツの市場アクセスを獲得し、最初の荷は12月に韓国に到着する予定である。

＜タンジェリン/マンダリン＞

表1　韓国のタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン（生鮮） 販売年度の始まり 韓国	2022/2023 2022 年 10 月		2023/2024 2023 年 10 月		2024/2025 2024 年 10 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積（ヘクタール）	19,871	19,871	19,720	19,726	0	19,514
収穫面積（ヘクタール）	18,679	18,679	18,537	18,537	0	18,343
結果樹本数（千本）	23,348	23,348	23,171	23,171	0	22,929
未結果樹本数（千本）	6,458	6,458	6,409	6,409	0	6,342
果樹本数合計（千本）	29,806	29,806	29,580	29,580	0	29,271
生産量（千トン）	582	582	570	580	0	565
輸入量（千トン）	1	1	3	3	0	4
総供給量（千トン）	583	583	573	583	0	569
輸出量（千トン）	3	3	4	4	0	3
生鮮国内消費量（千トン）	514	514	514	536	0	526
加工仕向量（千トン）	66	66	55	43	0	40
総仕向量（千トン）	583	583	573	583	0	569

公式データは PSD Online Advanced Query からアクセスできる。

生産

韓国の2024/25年度（2024年10月～2025年9月）のタンジェリン/マンダリン（ミカン類）の生産量は、前年の58万トンに比べて2.6%（1万5千トン）の減となる56万5千トンと予測される。これは5年間の平均生産量である61万2千トンよりも約8%少なく、柑橘類生産量が過去10年間で最低であることを示している。この減少の主な理由は、韓国の柑橘類総生産量の約70%を占める露地のウンシュウミカンの収穫量が、減少傾向の栽培面積、悪天候、及び隔年結果により減少したことである。

韓国の柑橘類のほぼすべてが栽培されている済州島では、2024年に夏の猛暑と収穫期（9月～10月）直前の頻繁な雨に見舞われたため、裂果、落果、腐敗果の割合が増加した。その結果、2024/25年度の市場性のある生鮮果実の生産量は減少すると予想される。秋の雨は特に極早生品種と早生品種の品質に影響を及ぼし、収穫を妨げた。レッドヒャン等の一部の晩柑類でも深刻な裂果が生じた。

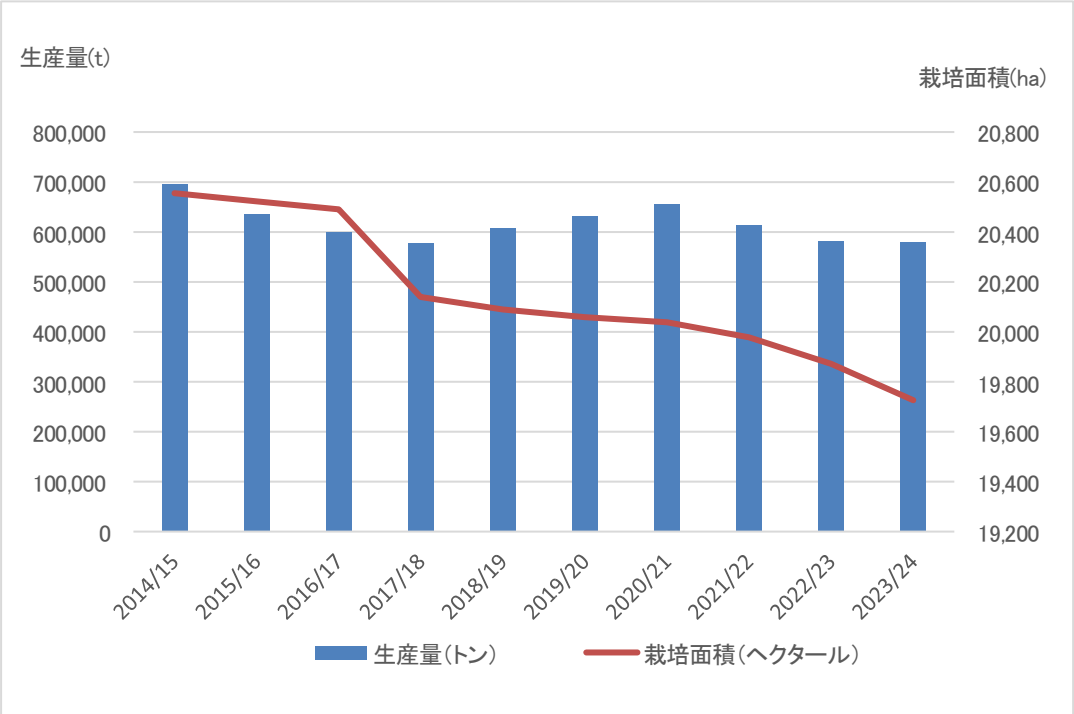
さらに、済州島の柑橘類生産の約65%を占める済州島南部のソギポ地域は、隔年結果の裏年に当たり、柑橘類生産量の全体的な減少にさらに拍車をかけた。済州島北部は通常、隔年結果のサイクルが逆であるため、2024年には表年となり、ソギポ地域の減少を部分的に埋め合わせた。

表2　韓国の柑橘類の生産量と栽培面積

	2019	2020	2021	2022	2023	5年平均
面積(ha)	20,059	20,038	19,978	19,871	19,726	19,934
収量(kg/10a)	3,147	3,268	3,069	2,938	2,937	3,072
生産量(トン)	631,310	654,864	613,118	581,858	579,432	612,116

出典: 済州特別自治道・農林畜産食品部(MAFRA)

図1　韓国の柑橘類の生産量と栽培面積



出典: 済州特別自治道

2024年9月に済州の柑橘類業界が実施した作物調査では、今シーズンの露地ミカンの生産量は前年(40万6千トン)と同程度の約40万トンと予測された。しかし、その後、頻繁な降雨により裂果や腐敗果が増加したため、予測を2万トン下方修正して38万トンとした。

柑橘類の総生産量の減少が予想されるにもかかわらず、済州産ミカンの全般的な品質は高いと評価されている。初期の品質テストでは、糖度が前シーズンと同等か、それよりわずかに高いことが示されている。さらに、ミカンの価格は、市場性のある果実の生産量の減少と果実の品質の高さの組合せにより、前シーズンに見られた高い価格水準に匹敵する堅調な状態が続くと予想される。

・悪天候が柑橘類の生産に影響

今年度の露地ミカンの生産量の減少は、主に夏の猛暑(裂果や落果に繋がった)による被害が大きかったことによる。韓国本土と同様に、済州島も夏の期間に記録的な熱帯夜(最低気温が摂氏25度を超える)を経験し、それは9月中旬まで続いた。済州の柑橘類業界によると、裂果率は例年の5%、昨年の8.2%に対し今年は23.3%に急増した。今年の裂果率は過去最高になると予想される。裂果や落果といった熱波の被害に加え、10月上旬の収穫期の長引く高温と頻繁な降雨により、収穫計画の混乱や腐敗果が発生し、事態が悪化した。その結果、今シーズンは市場性のあるミカンの生産量が大幅に減少した。

・栽培面積

韓国の2024/25年度の柑橘類栽培面積は、前年の1万9,726ヘクタールから約1%減となる1万9,514ヘクタールと推定される。柑橘類の栽培面積が徐々に減少するとともに、生産者がより収益性の高い品種に転換するにつれて温室栽培に移行するという最近の傾向が続いている。

2023/24年度の柑橘類の栽培面積は1万9,726ヘクタールで、前シーズンから0.7%減少した。柑橘類の総栽培面積のうち、露地ミカンの面積は1.1%減少し、晩柑類等の価値の高い品目の面積は1.2%増加した。済州の柑橘類業界は、近い将来の総栽培面積を約1万9千ヘクタールの横ばいと予測している。

栽培面積が減少する主な要因は、韓国の農業人口の高齢化と済州島の柑橘類農園周辺の不動産開発の問題であり、どちらも農場の閉鎖につながっている。この栽培面積の減少は、主に露地ミカン（高品質の晩柑類やその他の施設栽培品種と比較して、生産者の収入が低い傾向がある）が栽培されている地域で発生している。一方、露地ミカンの栽培面積の減少は、晩柑類や夏の温室ミカン等を生産する施設（温室）の面積の増加によって埋め合わされている。その結果、柑橘類の栽培面積全体は、それらが無い場合に比べてゆっくりとしたペースで減少している。

済州柑橘栽培者協同組合のデータによると、2000年の露地ミカンの栽培面積と生産量は2万4,261ヘクタール及び約52万トンであったが、これらのデータは徐々に減少し、2023/24年度には41%減の1万4,242ヘクタール及び21%減の約41万トンとなった。一方、主に施設（温室）で栽培される晩柑類の栽培面積と生産量は、2000年の665ヘクタール、1万617トンから、2023/24年度には4,172ヘクタール（527%増）、11万6,559トン（998%増）となり、過去20年間で生産量が10倍以上増加した。

・晩柑類

2024/25年度には、晩柑類の生産量は、前シーズンの11万7千トンよりも約11.5%多い13万トンに達すると予測されており、特に新設される温室の継続的な増加を反映している。この増加は、主要な露地ミカン（ウンシュウ）と比べて晩柑類生産者の収入が比較的高いことと、高品質な果実に対する消費者の需要が高まっていることによって推進されている。晩柑類の生産の大部分は、天候被害のリスクを軽減するために施設内で行われているが、一部の生産者はハルラボンのような晩柑類を露地で栽培でき、生産コストを削減できることを発見した。

2023/24年度には、主要な晩柑類であるハルラボンが、晩柑類の総生産量の33%を占め、チョンヒェヒャンとレッドヒャンは、それぞれ26%及び22%を占めた。さらに、他の晩柑類の生産は着実に増加しており、多様化の傾向を反映している。

・夏の温室ミカン

2024/25年度の夏の温室ミカンの生産量は、主に生産コストの増加、特に暖房費の上昇により新植の終了が予想されるため、前年と同様の約2万6千トンにとどまると予想される。この極早生品種は、春の数カ月の生育期間中に加温する必要がある。過去2～3年で、夏の温室ミカンの栽培面積は、国際的な石油価格の安定と消費者の需要の高まりに牽引されて徐々に増加した。しかし、昨今の国際原油価格の高騰に伴う暖房費関連のコスト負担の増加により、夏の温室ミカンの栽培面積は停滞することが予想される。

表3　韓国の夏の温室柑橘類の生産状況

年	栽培面積（ha）	生産量（トン）	販売額（百万ウォン）	生産世帯数	出荷単価（ウォン/kg）
2015	250	20,401	63,021	659	3,089
2016	284	21,660	76,087	697	3,513
2017	301	22,637	80,771	737	3,568
2018	321	22,898	81,046	783	3,539
2019	339	27,543	90,703	842	3,293
2020	363	25,358	100,603	887	3,999
2021	373	27,009	91,814	917	3,399
2022	415	25,775	99,506	961	3,861
2023	443	26,824	112,407	996	4,191
2024[1]	445	27,000	該当なし	該当なし	該当なし

[1] 当事務所による暫定値

資料: 済州道政府、韓国農村経済院

・加工用ミカン

2024/25年度の柑橘類の加工（ミカン果汁濃縮物）用の利用は、前年（4万3千トン）に比べて約7％減の約4万トンと予想される。この減少は主に、露地ミカンの供給の減少と、国内のミカン価格の上昇期待が、生産者が生鮮市場に販売することの動機づけとなっているためである。さらに、2024年10月には、極早生ミカンに大きな被害が発生し、国内の濃縮物製造業者らは、今シーズンの加工用ミカンの買入量が目標である5万トンを下回ると予想している。

国内のミカンの価格を安定させるため、通常、柑橘類の総生産量の約13～15％（約6万～7万トン）が、濃縮物の製造に使用されてきた。しかし、近年、露地ミカンの生産量が継続的に減少しているため、濃縮物の製造に使用されるミカンの量も減少した。昨年は、柑橘類全体の生産量が減少し、生鮮果実の価格が高騰したため、柑橘類の総生産量の7.4％にあたる4万3千トンしか加工に使用されなかった。柑橘類濃縮物の生産量が全体的に減少したことで、日本への輸出も減少すると予想される。

加工用柑橘類の買入量が減少したため、済州の柑橘類業界は今年の買入価格を前年より30ウォン/kg高い210ウォン/kgに改定した。買入価格のうち、140ウォンは濃縮物製造業者の負担で、70ウォンが済州道政府からの補助金である。

韓国の果汁市場でも、加工用に買入れるミカンの量が減少し、濃縮オレンジ果汁の輸入が減少したため、柑橘類果汁製品の生産量が減少した。その結果、柑橘類の果汁と他の果汁を組み合わせた製品が増えている。

消費

2024/25年度の韓国の柑橘類の消費量は、国産露地ミカンの供給が減少するため、前年の53万6千トンから推定52万6千トンに約2％減少すると予想される。今年の生産上の課題により、通常1月下旬または2月上旬まで続くミカンの出荷シーズンは、1月中旬頃に終了すると予想される。生産量は減少するものの、高い品質（糖度）は維持されている。さらに、他の果実に比べて比較的手頃な価格であることから、ミカンは高い消費者需要を享受している。

過去5年間、韓国の一人当たりの柑橘類の年間消費量は約12kgの横ばいであった。韓国の2024/25年度の一人当たりの柑橘類消費量は、前年（11.8kg）と同程度の約11.7kgと予測される。

表4　韓国の果実と柑橘類の一人当たり消費量

年	全果実（kg）	ミカン合計（kg）
2015	59.8	12.5
2016	60.6	11.9
2017	61.2	11.6
2018	57.5	12.0
2019	56.6	12.1
2020	51.5	12.6
2021	54.4	12.2
2022	55.0	11.8
2023	該当なし	該当なし

出典: 農林畜産食品部

貿易

韓国の2024/25年度の生鮮柑橘類輸出は主に早生ミカンで、前年比25％減の3千トンと予測される。韓国の2023/24年度の柑橘類の輸出量は、ロシア市場での需要拡大に牽引され、前年比22％増の3,997トンに達した。今年度の減少は、主に輸出可能な露地ミカンの減少と、国内市場価格の堅調さによるものである。主な輸出先は、2023/24年度の柑橘類総輸出量の56％（2,234トン）を占めたロシアであると見込まれる。次に大きな市場はカナダと米国で、それぞれ12.3％（493トン）及び9.5％（379トン）を占めている。通常、韓国ではあまり人気のない大玉のミカンは、輸出用に取っておかれる。

韓国のミカンは果皮が薄く、長距離輸送中に簡単に損傷を受けるため、輸出はいくつかの課題に直面している。さらに、生産コスト、特に人件費の上昇は、韓国の柑橘類のコスト競争力に影響を与える可能性があり、最近は国内の果実価格の上昇が果実を輸出市場から遠ざけている。その結果、近い将来、輸出量が急増する可能性は低い。

近年、韓国ではミカン類の輸入が増加している。特に、マンダリン（HSコード0805.21/22/29）は、2022/23年度には740トンに過ぎなかったが、2023/24年度には3,100トンに増加した。この増加は、特に韓国の消費者需要が米韓自由貿易協定（KORUS）に基づく関税の段階的撤廃に適応するのに伴って、今後も続くと予想される。2024年に19.2%であるタンジェリン/マンダリンの関税は、2026年にはゼロになる。

表5 韓国のタンジェリン/マンダリン輸出

輸出貿易マトリックス				
国名: 韓国				
商品: タンジェリン/マンダリン(HS 0805.21/22/29)　単位: トン、千米ドル				
輸出先国	2022/23		2023/24	
	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額
米国	399	808	379	904
その他				
ロシア	1,607	1,151	2,234	1,923
カナダ	522	516	493	503
香港	251	504	181	359
グアム	73	175	54	120
マレーシア	117	175	274	364
モンゴル国	33	69	43	82
シンガポール	216	684	241	819
上記以外	45	96	98	195
その他の合計	2,864	3,370	3,618	4,365
総計	3,263	4,178	3,997	5,269

出所: Trade Data Monitor LLC.

価格

2024/25年度には、生育期と収穫期の悪天候により露地ミカンの生産量が減少し、市場性のある果実が入手し難くなることから、露地ミカンの市場価格が高くなると予想される。この結果、市場価格は、国内の果実価格が堅調であった前年と同程度の水準で推移すると見込まれる。また、柑橘類の生産量が全体的に減少しているため、済州島での柑橘類の出荷は例年より早く終了すると予想される。通常、露地ミカンの出荷は2月まで続くが、昨年は1月末までにほぼ完了した。今シーズンも早期に終了すると予想されており、その結果、果実市場ではミカンの価格が上昇する可能性がある。

2023/24年度の1月と2月のウンシュウミカン（10玉）の平均消費者価格は、小玉が4,301ウォン、中玉が5,208ウォンで、前年（2,829ウォン及び3,427ウォン）と比較して52%及び26%の上昇となった。この価格上昇の主な理由は、2023年に他の主要な国産果実（リンゴ、ナシ、カキ）の生産量が20～30%減少したため、ミカンの代替需要が増加し、果実市場でより高い価格を得ることができたことである。（1ウォン＝約0.11円）